

OKI

マルチ・キーテレホンG
簡易操作マニュアル

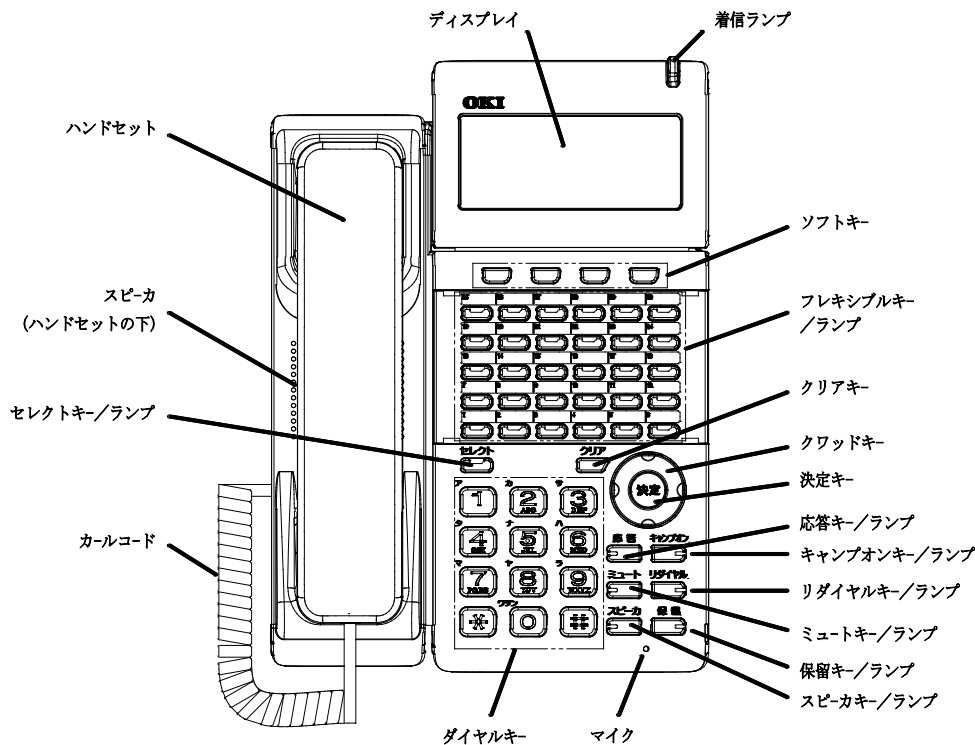
M K T / G - 3 0 D K - V 3

2022年11月

第1.00版

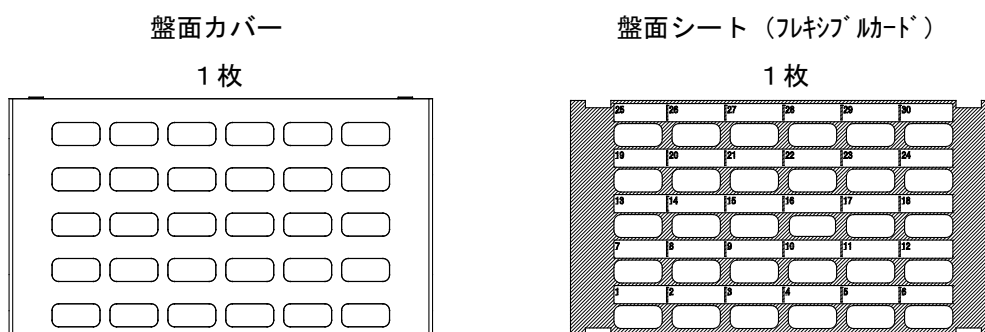
沖電気工業株式会社

1. 各部の名称



* ダイアルキーの斜め上に記載されている「ア」「カ」などの小さな文字は、ダイアルキーで文字を入力するときに、各キーに割り当てられている文字（「ア行」「カ行」・・・）を表しています。

2. 添付品



- ※ 本装置は SS9100、DISCOVERYneo 等の主装置システムに接続して使用することができます。
- ※ 各機能詳細、および本書に記載されている以外の機能については、主装置の操作説明書を参照してください。

3. 安全上のご注意

この「安全上のご注意」には、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、守っていただきたい事項を示しています。

本装置をご使用の前に、本文をよくお読みいただき、正しくご使用ください。お読みになったあとは、いつでも見られる場所に必ず保管してください。



次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険性が想定される内容を示しています。

- 電話機コードを商用電源には接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

- 周囲に発火性、腐食性のガスがある場所で使用しないでください。爆発、火災、感電、故障の原因となります。
- 開口部から内部に金属類を差し込んだり、落としたりしないでください。火災、感電、故障の原因となります。

- 本装置を分解・改造しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 本装置の上や近くに花瓶、コップ、化粧品、薬品、植木鉢等、水の入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災、感電、故障の原因となります。

- 医療用電気機器や自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くに設置したり、近づけないでください。電波が影響を及ぼす場合があります、誤動作による事故の原因となります。
- 「P C」ポートに接続したネットワークケーブルを商用電源、アナログ電話回線、デジタル電話回線（I S D N）、P B Xデジタル電話回線には接続しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 内部の点検・修理は、取扱店に依頼してください。

注意

次の項目を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所、及びちりほこりの多い場所には置かないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。
- 本装置は、精密な電子部品で出来ていますので、衝撃、振動の加わる場所での使用、保存は避けてください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- ぐらついた台の上や、傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 直射日光の当たるところやストーブなどの発熱する機器の近く、湿度の高いところでの使用、保存は避けてください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- 強い磁界、電波を発生する機器の近くでの使用、保存は避けてください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- 壁掛け用に取り付ける場合は重みにより本装置が落下しないよう、専用の取り付け器具を使用し、指定の方法で取り付けてください。落下すると、けがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、回線コードなど外部の接続線を外したことを確認の上、行ってください。コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電、故障の原因となることがあります。
- 水滴がいたら乾いた布で拭き取ってください。内部に入ると火災、感電、故障の原因となることがあります。
- 本装置を清掃するときは、揮発性のあるシンナーやアルコールおよびシリコン系クリーナーなどの使用は絶対に避けてください。変色、変形の原因になることがあります。水を含んだ布をかたく絞って拭いた後、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 高い信頼性を要求される幹線通信機器や電算機システムでは使用しないでください。誤動作により社会的に影響を与えるおそれがあります。
- 本装置に接続したケーブル配線を通路等、人が通る床の上にむき出しにしたまましないでください。ケーブルにひっかけて装置が落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本装置を積み重ねて使用しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本装置の通風孔を塞いだ状態で使用しないでください。誤動作、発熱、故障、破損の原因になります。
- 落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
- 本装置に接続されている受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれている電話機コードを強く引っ張らないでください。故障の原因となることがあります。

その他、設置・ご使用にあたってのお願い

- 停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた逸失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を一切負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置を、人命に重大な危険が及ぶような高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください。
- 本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります。
- テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所、放送局の近くや違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります。
- 雷が多い地域において、雷対策を実施する場合には取扱店にご相談ください。

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

4. 仕様

表 MKT/G-30DK-V3 仕様概要

項目		仕様
外部 インタフェース	PBX インタフェース	2線式デジタル内線 (Sプロ) RJ11(2W) × 1
	保守 インタフェース	10BASE-T/100BASE-TX RJ45 × 1
	給電 (-48V 時)	60mA以下
外形寸法/質量	外形寸法	187mm (幅) × 260mm (奥行) × 96.3mm (高さ)
	質量	約1.1kg
環境条件	設置形態	卓上/壁掛け
	動作温度/湿度	0~40℃/20~85%RH (結露無)
	保存温度/湿度	-20~60℃/10~90%RH (結露無)

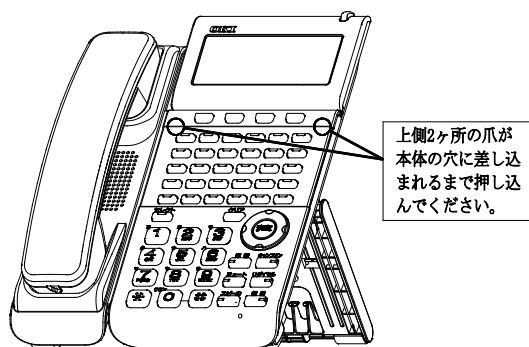
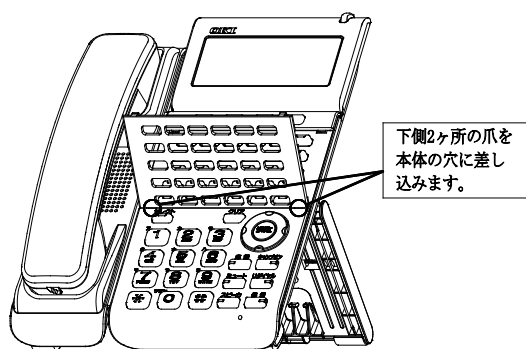
5. 電話機の調整

(1) 盤面カバーの取り付け、取り外し方

盤面カバーの取り付け方

盤面カバーは、下側／上側どちらからでも取り付け可能です。

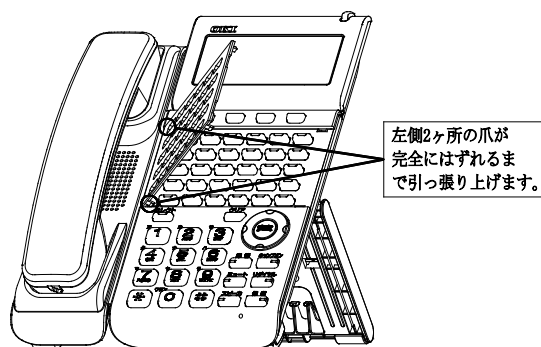
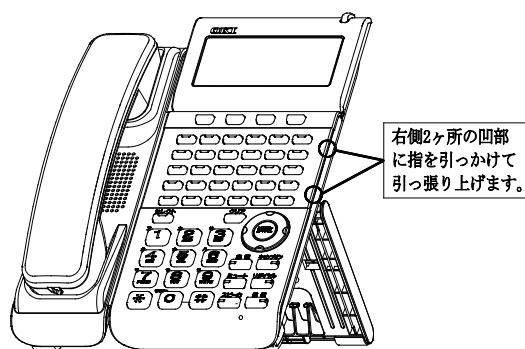
図は下側からの取り付け方を示します。



盤面カバーの取り外し方

盤面カバーは、右側／左側どちらからでも取り付け可能です。

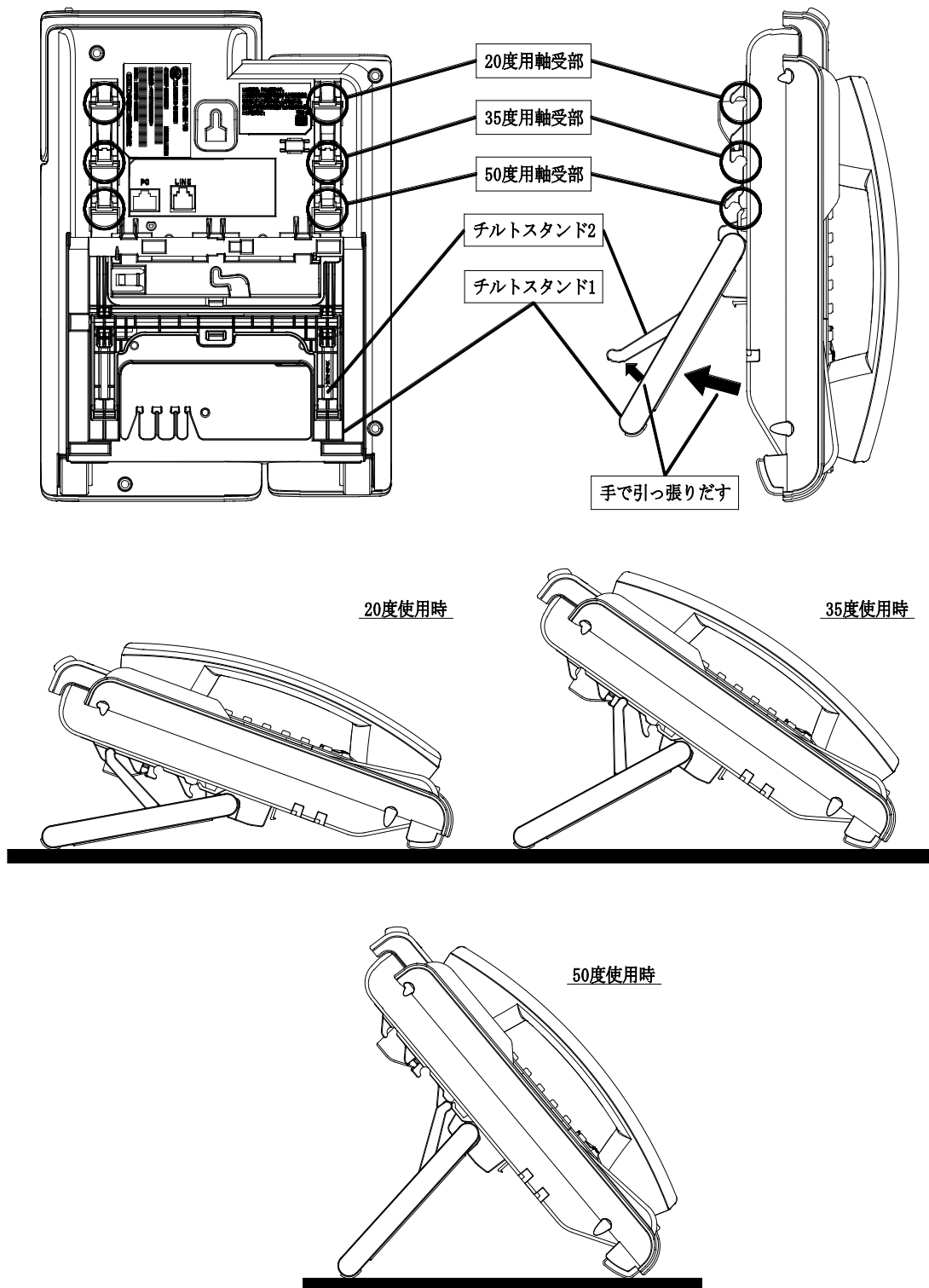
図は右側からの取り付け方を示します。



(2) スタンド使用方法

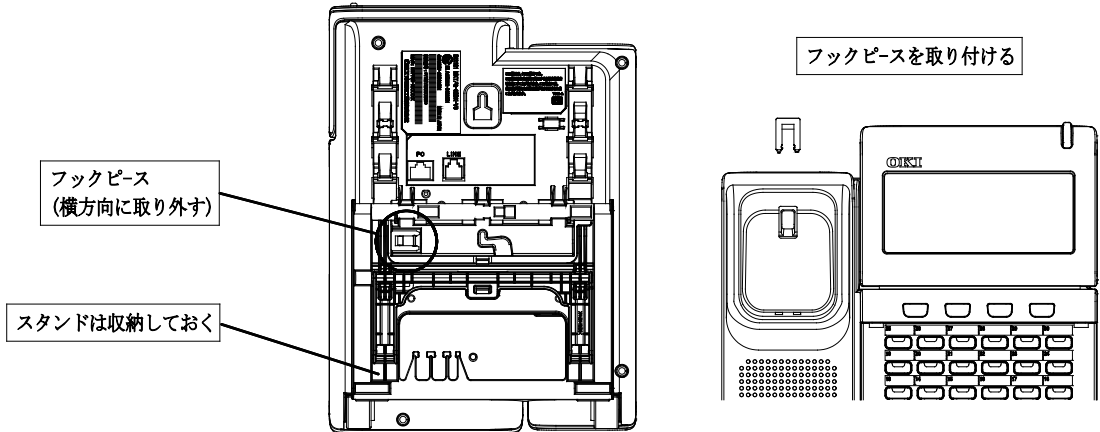
スタンドは、3種類の角度（20度、35度、50度）で使用できます。必ず3種類のいずれかの角度で使用してください。

注) 0度（平置き）では使用しないでください。

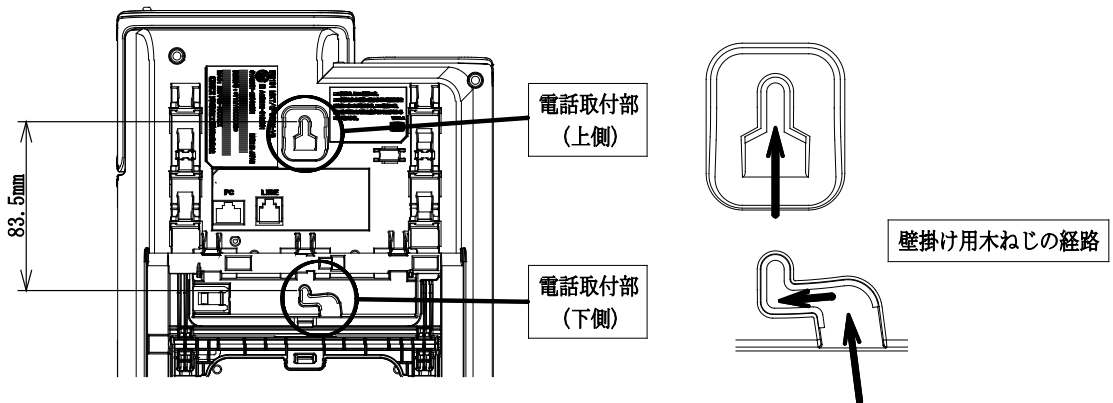


(3) 壁掛け方法

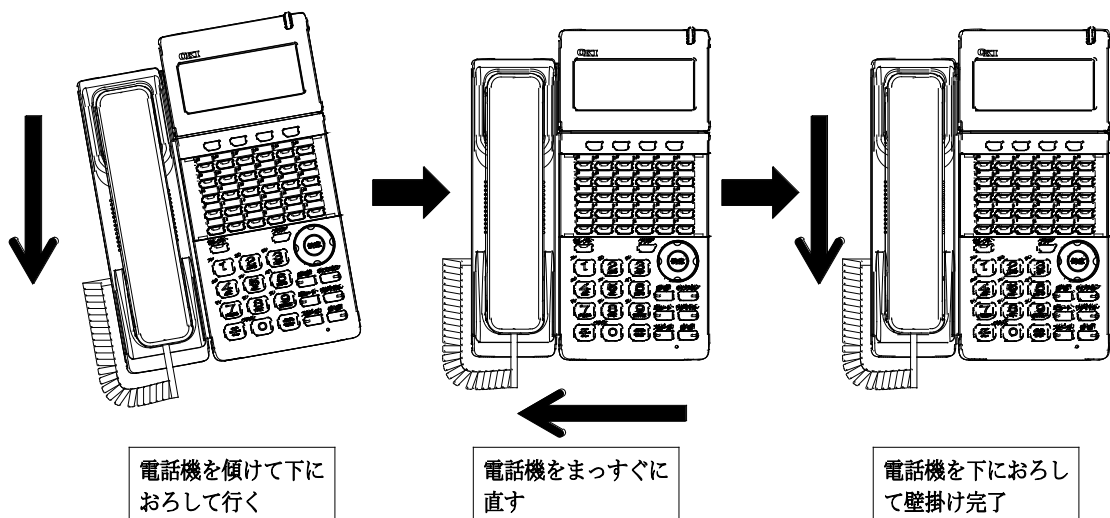
- ① 電話機の底面に付いているフックピースを横方向にスライドさせて取り外します。
- ② 電話機のハンドセット収納部にフックピースを取り付けます。
- ③ スタンドは収納した状態とします。



- ④ 電話機を取り付ける壁へ木ねじ (2本) を取り付けます。木ねじは縦に 83.5mm 間隔で取り付けます。(ねじは添付していません。別途手配してください。推奨サイズ：呼び径 3.8mm)

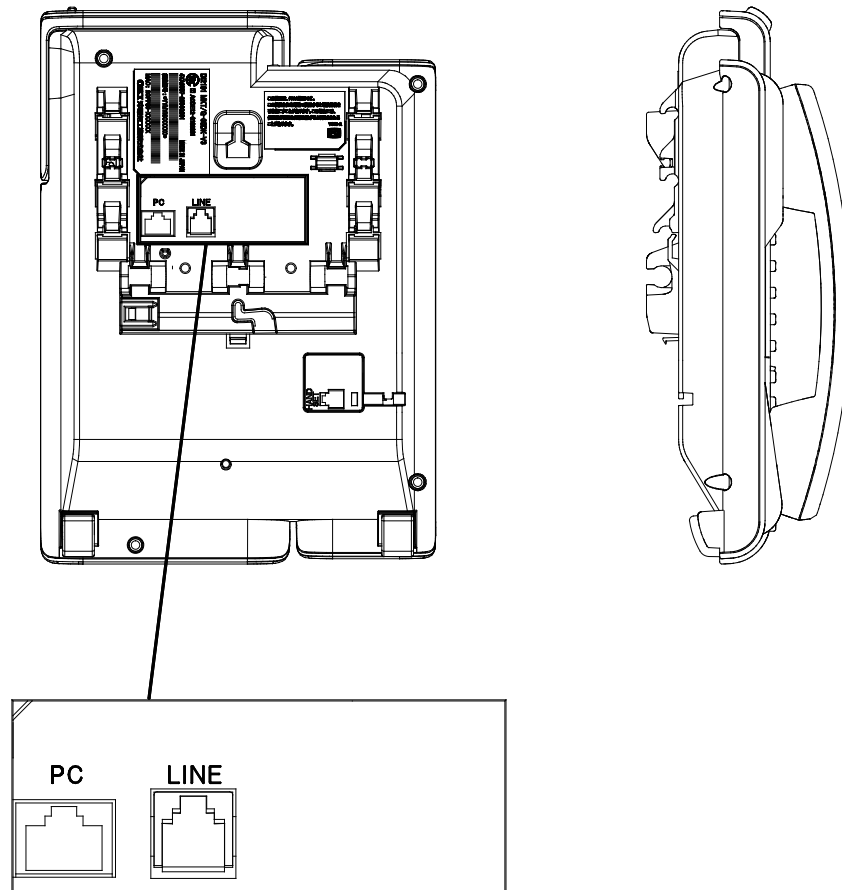


- ⑤ 木ねじに電話機を取り付けます。
電話機を傾けて電話機取り付け部を木ねじに差し込みます。その後横にずらして取り付けます。



6. 外部入出力端子

6.1 MKT/G-30DK-V3



LINE : 電話機コードを差し込み、主装置に接続します。

PC : LANケーブルを差し込み、保守用パソコンに直接接続します。

電話帳編集・ファーム更新時に使用します。

8. 電話をかける／受ける／転送する

※電話をかける／受ける／転送の方法は、システム設定によって、操作が異なる場合があります。

8.1 電話をかける

(1) 外線にかける

- ① 受話器を上げます
- ② ランプが点灯していない外線キーを押します
ランプが緑色になります。

※ 使用中の外線キーのランプは赤点灯しています。使用されていない外線をご利用ください。

- ③ 相手の電話番号をダイヤルします
- ④ 相手が応答したらお話しします

※ 外線キーはフレキシブルキーに割り当てられています。

※ 外線キーのかわりにダイヤルキーの「0」を押しても外線へかけられます。

※ この他にも、リダイヤルキー、ソフトキー、短縮ダイヤル、電話帳から電話をかける方法があります。
詳しくは、主装置の操作説明書をご覧ください。

(2) 内線にかける

- ① 受話器を上げます
- ② 相手の内線番号をダイヤルします
- ③ 相手が応答したらお話しします

8.2 電話を受ける

(1) 外線からの電話を受ける

外線着信音が鳴り、外線キーのランプが赤色で点滅します。

- ① 受話器を上げます
- ② 点滅している外線キーを押します
- ③ 相手とお話しします

※ フレキシブルキーの設定方法は主装置の操作説明書をご覧ください。

(2) 内線からの電話を受ける

内線着信音が鳴ります。

- ① 受話器を上げると、相手とお話しできます。

- (3) 近くの電話に内線電話がかかっている場合
- ① 受話器を上げます
 - ② 代理応答キーを押します
※代理応答キーは、フレキシブルキーに割り当てられています。
 - ③ 相手とお話します

8.3 電話を転送する

- (1) 外線を保留してから転送する
- ① 外線通話中に、相手に待っていただくよう伝えます
例) 「電話を転送しますので少しお待ちください」
 - ② 保留キーを押して、受話器を戻します
 - ③ 転送する人に声をかけます
例) 「××さん、外線○番に△△さんからお電話です」
 - ④ 声をかけられた人は、受話器を上げ、○番の外線キーを押して応答します
再度電話を取る場合は、○番の外線キーを押すことで、元の相手との通話に戻れます。
- (2) ダイヤルで転送する
- ① 外線通話中に、相手に待っていただくよう伝えます
例) 「電話を転送しますので少しお待ちください」
 - ② 転送先の内線番号をダイヤルします
※ 転送先が応答しなかったり、話し中の場合は、フックスイッチを押すことにより、元の相手との通話に戻れます。
 - ③ 転送先が応答したら、電話を転送する旨を伝え、受話器を置きます。

- ③ 「LCD濃度切替」が選択された状態で、決定キーを押します

	サ	ー	ビ	ス	設	定	メ	ニ	ュ	ー
>	L	C	D	濃	度	切	替			
	通	話	モ	ー	ド	切	替			
	R	O	M	バ	ー	ジ	ョ	ン	確	認
	バ	ッ	ク	ラ	イ	ト	ベ	ー	ス	色
										切
										替

LCD濃度を調節する画面が表示されます。

- ④ LCD濃度を調節します

	L	C	D	濃	度	切	替			
								■	■	■
								■	■	■
								—	—	—
								—	—	—

クワッドキーの上下を押すごとに、濃度が1段階ずつ変わります。(8段階)

- ⑤ 決定キーを押します

LCD濃度が設定されます。

9.3 バックライトタイマを調節する

ディスプレイのバックライトが点灯してから、消灯するまでの時間を変更することができます。

- ① 待受状態のとき、決定キーを押します

メインメニューが表示されます。

- ② 「サービス設定」をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	メ	イ	ン	メ	ニ	ュ	ー
	電	話	帳				
	通	話	履	歴			
	音	設	定				
>	サ	ー	ビ	ス	設	定	

サービス設定メニューが表示されます。

- ③ 「バックライトタイマ切替」をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	サ	ー	ビ	ス	設	定	メ	ニ	ュ	ー
	通	話	モ	ー	ド	切	替			
	R	O	M	バ	ー	ジ	ョ	ン	確	認
	バ	ッ	ク	ラ	イ	ト	ベ	ー	ス	色
										切
>	バ	ッ	ク	ラ	イ	ト	タ	イ	マ	切
										替

バックライトタイマを調節する画面が表示されます。

※メニューの下の方の項目は、クワッドキーの下を押してカーソルを移動させると表示できます。

- ④ バックライトタイマの設定値をクワッドキーの上下で選び、決定キーを押します

	バ	ッ	ク	ラ	イ	ト	タ	イ	マ	切
>	無	操	作		5	秒	保	持		
	無	操	作	1	0	秒	保	持		
	無	操	作	3	0	秒	保	持		
	即	時	消	灯						

バックライトタイマが選んだ値に設定されます。

※メニューの下の方の項目は、クワッドキーの下を押してカーソルを移動させると表示できます。

10. その他の主な機能

表 3 その他の主な機能

機能	説明
キャンプオン	内線発信時に相手が話し中の場合、内線／キャンプオン キーを押すことにより、相手の内線が空き次第、自動的に呼び出します。
ミュート	通話中にミュート キーを押して、こちらの声を相手に伝わらないようにすることができます。
電話帳	最大1000件まで登録することができます。 電話帳から名前を検索して発信することができます。
発信／着信 履歴	それぞれ50件まで保存されます。履歴から電話帳へ登録することや、履歴から発信することができます。50件を超えると古い履歴から自動的に削除されます。
スピーカ受話音量	電話機のスピーカ音量を調節することができます。
キー操作音	キータッチトーンの有／無を切り替えることができます。
送話音量	受話器(ハンドセット)の送話音量を切り替えることができます。
マイク音量	ハンズフリー通話時のマイク音量を切り替えることができます。
通話モード切替	ハンドセット、ヘッドセット、ハンズフリーの選択を行います。 ※機種により選択肢が異なりますので注意してください。

11. お問い合わせになる前に

本装置が正しく動作しない時、故障と思う前に下記の内容を確認してください。

表 4 症状と確認項目

症状	確認項目
ディスプレイに何も表示されていない。	電話機コードの抜け、接触不良が考えられます。確認に入っているかを確認してください。
受話器から”ツーン”という音が聞こえない。	受話器（ハンドセット）のカールコードの抜け、接触不良が考えられます。確認に入っているかを確認してください。
こちらの声が相手に伝わらない。	ミュートじょうたいであることが考えられます。[ミュート]キーのランプ点灯しているときは、[ミュート]キーを押して、[ミュート]を解除してください。
[スピーカー]キーを押したのに、スピーカーから音が出ない。	電話機設定機能の「通話モード切替」が「ヘッドセット」に設定されていることが考えられます。 「通話モード切替」を「ハンドセット」または「ハンズフリー」に設定してください。※機種により選択肢が異なりますので注意してください。
[応答]、[キャンプオン]、[リダイヤル]、「保留」キーを押したのに、各キーの機能が動作しない。	主装置の設定で、各キーに機能の割付けが必要です。主装置の操作説明書を参照してください。

12. お問い合わせ窓口

本書の記述で不明な点がありましたら、主装置の操作説明書をご覧ください。本装置の運用・保守に関する疑問や質問、あるいは主装置の操作説明書の記述で不明な箇所がありましたら、本装置を購入された取扱店までお問合せください。

OKI 沖電気工業株式会社

使用済み製品を廃棄する場合は、廃棄物処理法に基づいた処理が必要です。

廃棄・リサイクル処理についてのお問合せは、営業または取扱店までご連絡ください。